講義名	社会心理学(2年生以上)					授業形態	
担当教員	秋山 学	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 ４時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	S0P182

主題と概要

人は社会の中で生きており、常に他者に影響を与えたり、他者から影響を与えられたりしている。社会心理学は、社会を構成する人々の関わりが生み出す効果やそれらの発生プロセスを扱う学問である。社会心理学は幅広いテーマを持つ学問であるが、その研究対象は①個人内の心理過程、②二者間の社会的関係や社会的相互作用、③集団や組織・文化という3つのレベルに大別することができる。この授業では、それぞれに関わる主要なトピックについて概念や理論、研究を概観する。そしてこれらを通して、社会心理学に関する基礎的な知識やその考え方・物事の見方を理解することを目標とする。

到達目標

a. 対人関係ならびに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できる
b. 人の態度および行動について，種々の理論を用いて説明できる
c. 集団および文化が個々人の行動に及ぼす影響について概説できる

提出課題

各授業回では、Ryuka Portalから課題提出を求める。授業の最後に、授業内容に関連した課題を出題する。その回答をRyuka Portalから提出すること。課題提出の際には，授業に対するコメントや質問等の回答欄も設けるが提出は任意とする。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

● 各授業の最後に出題した課題は、次回授業時に解説を行う。
● 前回授業時に提出された質問、当該授業回に関する要望（再度の説明や関連内容に関する説明の要望）に対しても、次回授業時に受講生全体に対して返答する。

評価の基準

各回授業への参加（レスポン（Respon）あるいはMoodleなどへの回答）および課題（30%）ならびに
授業内確認テスト3回（70%）により総合的に評価する。

※注意点
（a）成績評価の対象者は、授業の欠席回数が総授業回数の3分の1未満の受講生のみである（学則第16条に準ずる）。
授業全体で出席回数が一定に満たない場合（全15回の授業において出席が11回未満の場合）、確認テストの得点に関わらず、「放棄」となる。

（b）上記（a）の通り、出席が成績評価の前提となるため、出席に関する不正行為は成績評価に関する不正行為（カンニング・剽窃等）と同義とみなし、出席に関する不正行為を行った受講生および関与した受講生は不正が確認された時点で本授業の成績評価を「放棄」とする。

履修にあたっての注意・助言他

● 授業では教科書を使用せず、資料を配布する。

● 必要に応じて教員の説明を自分でノートや資料にメモすることが求められる。

● 公的な大会や行事、忌引きなどやむを得ない事情での授業欠席は、欠席届および証明書を提出することで、欠席扱いにならない場合がある（証明書がない場合や本人の不注意、欠席事由に正当性が認められない場合などは除く）。

● 本授業は、心理社会学科心理コースにおいて卒業必修科目となっている。心理社会学科１年生において、2年次に心理コースへの所属を検討している学生には履修を強く推奨する。

教科書

.使用しない.				

参考図書

.読んでわかる社会心理学.	辻川典文・辻川典文・阿部晋吾・神原歩・田端拓哉	サイエンス社	2640	9784781914
.社会心理学概論.	北村 英哉・内田 由紀子	ナカニシヤ出版	3850	9784779510595
.社会心理学　補訂版.	池田 謙一・唐沢 穣・工藤 恵理子・村本 由紀子	有斐閣	3520	9784641053878

その他

各回で資料を配布する。

授業計画

1. オリエンテーション：社会心理学での社会とは？
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

2. 社会の中の自己
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

3. 自尊感情と動機づけ
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

4. 態度
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

5. 他者に対する評価・判断，社会的推論
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

6. これまでの振り返り①：個人の心理過程
予習・復習
・これまでの授業資料やノートを確認し、用語の意味や理論を自らが説明できるようにしておくこと（120分）
・授業内確認テストにおいてできなかった箇所を確認し、該当箇所を理解しておくこと（120分）

7. 対人関係
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

8. 対人魅力・恋愛
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

9. 援助と攻撃
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

10. これまでの振り返り②：社会的関係
予習・復習
・これまでの授業資料やノートを確認し、用語の意味や理論を自らが説明できるようにしておくこと（120分）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

心理社会学科共通ディプロマ・ポリシー
（1）社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。
→目標a.～c.の達成は、人の心理や他者とのかかわり、人々が集まることで形成される社会や文化を理解することと同義であるため、各目標の達成はこのディプロマ・ポリシー達成のために貢献している。

（2）統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身につけ、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。
→本授業は、実際に調査研究やフィールドワークを実施するわけではないが、各授業では、実際に行われた研究についてその方法も含め説明を行う。また目標a.～c.を達成することは、他者とのコミュニケーションにおける原理や法則性を理解することにつながる。

心理社会学科 社会・文化コースディプロマ・ポリシー
（1）社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことがらの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。
→目標a.～c.の達成は、社会や地域の中で生きる人々の心理のメカニズムや社会との関わりについての理解が伴う。そのため、各目標の達成は、このディプロマ・ポリシー達成に貢献できる。

（2）社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会共創・産学連携、インターンシップなどで現実社会との接点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。
→社会問題の中には、人同士が関わって生じる問題や人々の考え方に起因して生じているものがある。目標a.～c.の達成は、そうした社会問題の理解し、解決を考えることに貢献できる。

心理社会学科 心理コースディプロマ・ポリシー
（1）人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。
→本授業の目的a.～c.は、このディプロマ・ポリシーに挙げられた「人間の精神機能と心理学に関する基礎的知識」の習得と同義であるため、各目標の達成はこのディプロマ・ポリシー達成に貢献する。

（2）コミュニケーション能力と、消費者と援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面で心理学を応用することができる。
→本授業の目的a.～c.は、コミュニケーションや消費者行動、援助行動を含む人の全般的な社会的行動の理解に関連している。そのため、これらの目標の達成は、このディプロマ・ポリシーに貢献する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

●授業ではLMS（学習支援システム）であるCampus-Xs（あるいはMoodle）を用いるため、ウェブにアクセスできる端末が必要となる。
●担当者は2025年より流通科学大の講義担当者となるため、LMS（学習支援システム）など、授業運営方法について、授業開始後に変更を行う可能性があるので、Ryuka Portalからの連絡を忘れずに確認しておくこと。